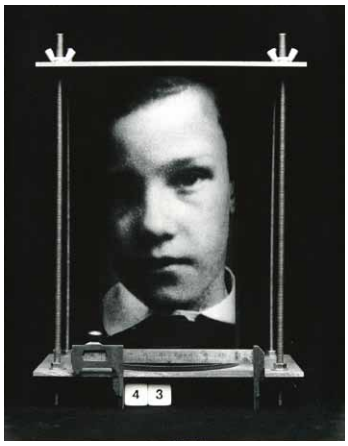
北川健次展

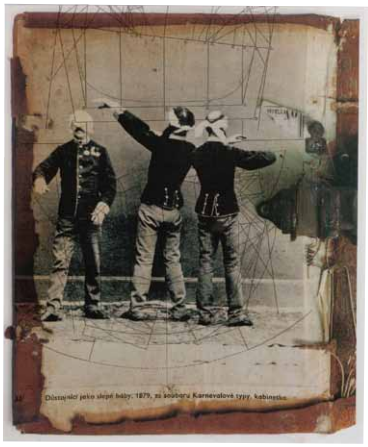
「Kenji Kitagawa—鏡面のロマネスク」

芸術制作の秘密が、北川作品というかたちで暴かれ、底光りを発しているのであるから。なんという鏡であろうか、「鏡面の詩学」であろうか。私は覗き込み、覗き込まれる。たんなる秘密の交換あるいは共有ということでは済まされないような、むしろ共謀への不穏な悦びの蠢動がそこにはある。

野村喜和夫（詩人）



「計測される A・エリスの肖像」 銅版画



「目隠しされたロレンツォ・ロットが語る 12 の作り話」
ミクストメディア



「The Misses Lutwidge playing chess」
オブジェ



「完全なる遊戯　あるいはティエポロの 7 月の内耳」 オブジェ

ノスタルジアとは物質を欠いた悲しみを唄うこと。きみは蒐集し、測定し、引用する。それが物質にもう一度、唄を回復させてみせる慎しやかで優雅な儀礼であるといって、どうしていけない理由があるだろう。

四方田犬彦（映像学・比較文化）

写真は記録以外の領域でこそほんとうの力を発揮できることを北川氏は知っているのではないだろうか。実像を通りぬけ、イリュージョンのなかにそっと入り込んでしまうのが彼の写真だ。

川田喜久治（写真家）



「チュイルリーの白い彫像」 写真



「Hotel Chopin — パサージュ・ジュフロワ」 写真

関連イベント

【記念対談】　北川健次の創作の秘密に迫る

12月11日[日]午後2時～　当館講堂にて

出演｜北川健次（本展出品作家）×芹川貞夫（当館館長）

＊聴講無料

【出品作家によるギャラリートーク】

11月27日[日]午後2時～

12月10日[土]午後2時～

当館展示室にて

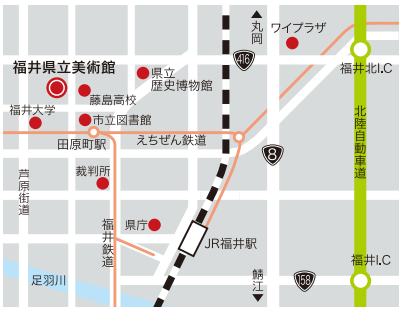
講師｜北川健次

＊観覧券が必要です



北川 健次

1952年福井県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。駒井哲郎に銅版画を学び、棟方志功・池田満寿夫の賞譜を得て作家活動を開始。75年現代日本美術展ブリヂストン美術館賞受賞。76年東京国際版画ビエンナーレ展（東京国立近代美術館）、81年リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展招待出品。89年より「箱」を主題に立体表現も展開、90年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧。2010年パリ市立歴史図書館にて開催された『RIMBAUD　MANIA』展に招待出品。銅版画とオブジェの分野における第一人者的存在。版画、油彩画、オブジェの他に写真、詩、評論も手がける。鋭い詩的感性と卓越した意匠性を駆使した作品は、美術の分野において独自の位置を占めている。



同時開催◎所蔵品によるテーマ展「和紙と日本画 — 近代日本画の巨匠たち —」 *本展チケットにてご覧いただけます

交通のご案内

- コミュニティバスすまいる／JR福井駅西口「駅前商店街」または「福井駅北」のりばより、田原・文京方面線約10分「県立美術館」下車
- 京福バス／JR福井駅西口10番のりばより、福井総合病院線(26系統)約10分「藤島高校前」下車(※日曜・祝日は運休)
- 福井鉄道・えちぜん鉄道／「田原町駅」下車徒歩約8分
- 車・タクシー／JR福井駅より約8分、北陸自動車道福井北ICより約15分

※ご来館の際は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。お車の際はアイドリングストップにご協力下さい。

福井県立美術館

〒910-0017　福井市文京3-16-1　TEL:0776-25-0452　FAX:0776-25-0459

http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html

11.11.55720